

平成 16 年度 最終報告書

被助成者 横浜 NGO 連絡会 横川芳江 ㊞

コード 番号	04-A-273
-----------	----------

「第3回ネットワークNGO全国会議」

世界は繁栄を極める一方で絶対的貧困層の人口は増え、各地で紛争が続き、自然環境の悪化が進んでいる。この様な地球的規模の問題を解決するために国家や国際機関だけではなく、NGOや市民も大きな役割を担っている。また「地雷廃絶キャンペーン」のようにNGOや市民がネットワークを広げ、連携することで世界を動かし、国際平和の解決につながる可能性を示唆した。こうした世界的な連携の中で、日本のNGOもより連携を強め、能力を効果的に発揮し、国際社会の平和・安定に貢献することが求められている。また、NGOに対する社会的な関心の高まりに対し、情報提供や国際協力活動への対応、政府への提言活動などネットワーク型NGOの役割が重要になっている。全国レベルでのネットワークNGOが更なる連携・協働の構築を目指して、「第3回ネットワークNGO全国会議」を開催することとなった。

2005年2月19日(土)～20日(日)、JICA横浜国際センターにて、北海道から沖縄までのネットワークNGO 20団体、参加総数150名が一堂に会した。基調講演の北沢洋子氏から「国際協力ネットワークNGOの役割」として、世界のネットワークNGOの状況・役割について学んだ。その後の会議では「NGO・外務省協議会」「NGO・JICA 協議会」など各協議会の検証と評価を行ない、NGOとODAのパートナーシップの構築を目指して話し合った。また、NGOと地域との連携について具体的な事例を基に今後の活動に繋がる議論と経験交流を行った。ネットワークNGOは組織強化、マネジメント能力の向上、人材育成などまだまだ課題は多い。世界の平和と安定に貢献するために、この様な全国会議を通して、相互に学びあい、切磋琢磨し、国内外のNGOや市民とのより広い連携を作る必要がある。「よこはま de パワーアップ」を合言葉に、まだ若く小規模なネットワークNGOである「横浜NGO連絡会」が事務局を担うことが出来て、感謝に耐えない。

活動の背景

経済のグローバル化は市場経済を活発化し大きな繁栄をもたらしたが、その一方で貧富の格差は拡大し、絶対的貧困層の人口は増加傾向にある。世界各地域で紛争が続き、自然環境の悪化が進んでいる。このような地球規模の課題を解決するために、国家や国際機関とだけでなく、NGOや市民も大きな役割を担っている。

NGOは国境を越えて様々な活動を展開し先進諸国の過度な経済活動・消費生活によって悪化する自然環境を守り、人権が保障される社会づくりのために活動を進めている。また個々のNGOだけでは解決が難しい問題に対して「地雷廃絶キャンペーン」「ジュビリー2000・債務帳消しキャンペーン」の運動等、NGOや市民がネットワークを強め、連携することで各国政府や国際機関を動かし、国際平和の解決につながる可能性を示唆した。

こうした世界的な連携の中で、日本のNGOもより連携を強め、能力を効果的に発揮し、国際社会の平和・安定に責任を果たすことが求められている。また、NGOに対する社会的な関心の高まりに対し、情報提供や国際協力への貢献活動など多様なニーズに対応するためにもネットワーク型NGOの役割は重要なものになってきている。

しかし、日本のネットワークNGOの活動はまだ歴史が浅く、その役割を担うための経験や能力を持っている団体は少なく、充分とはいえない。先行するネットワークNGO団体の努力で情報交換や人的交流の場として「全国NGOの集い」(1991年、92年、94年)などが開催された。その活動の中から関係ネットワークNGOによってNGOと政府関係省庁間で各種協議会が展開されてきた。

更なる連携・協働の構築が必要であることから、立正佼成会一食平和基金の助成を受け、2002年2月「第1回ネットワークNGO全国会議」(会場:JICA 大阪国際センター)、2003年2月「第2回ネットワークNGO全国会議」(会場:海外職業訓練協会)が開催された。第2回会議では、NGO間の協力体制や外務省・JICAとの連携の推進、またNGOの組織強化などが話し合われたが、論議を尽くせず、「連携の在り方検討委員会」を設置し、「第3回ネットワークNGO全国会議」で、その提案を受けて論議することとなった。

なお、今後第5回までは全国会議開催を継続する事が確認された。

活動の目的

- 1、「第2回ネットワークNGO全国会議」で設置された「連携の在り方検討委員会」からの提言を受けて、全国レベルでのネットワークNGO間の協働体制を確立する。
- 2、全国レベルでの地域におけるNGOの対市民、地域行政各機関とのネットワークの確立。
- 3、対政府との「NGO 外務省定期協議」「NGO・JICA協議会」「NGO・JBIC協議会」などの検証・評価ならびに提言活動。
- 4、神奈川という地域で、国際協力に関わるNGOの緩やかなネットワークを構築する。

活動の方法

「第3回ネットワークNGO全国会議」を開催する

目的達成のために「第3回ネットワークNGO全国会議」を開催する。

「第2回ネットワークNGO全国会議」にて承認されたネットワークNGO団体により準備委員

会を設置し、全国のネットワーク団体に広報して「第3回ネットワークNGO全国会議」実行委員会を立ち上げた。実行委員会が、募金の責任を負うとともに、ネットワークNGO団体へ広報し、意見を参考にしながら会議の企画、プログラム案の作成、運営を行った。

活動の内容

1、実行委員会活動

倉田洋子(にいがたNGOネットワーク)、林 滋((特活)名古屋NGOセンター)、榛木恵子((特活)関西NGO協議会)、山崎唯史((特活)国際協力NGOセンター)、山中悦子(ODA改革ネットワーク)、横川芳江(横浜NGO連絡会)、和木弘毅(横浜NGO連絡会)、小俣典之、加藤和男、西依玉美、芳賀美紗子、山本博子、横山肇(以上、横浜NGO連絡会 実行委員会事務局)からなる実行委員会を組織し、2004年4月から2005年3月まで計7回の実行委員会を開催した。

2、事務局体制の確立と活動

第2回会議で、新潟市が候補地となり、「にいがたNGOネットワーク」を中心に準備委員会が設置された。しかし、新潟での準備が整わず、1年延期して横浜開催となった。「横浜NGO連絡会」が事務局を担当し、「横浜NGO連絡会」の中に事務局を設置した。世話人代表の小俣典之が事務局長、世話人会が事務局となった。また、会議資料の作成・編集に1名、会議報告書担当に1名の事務局協力者を置いた。その他、記録・運営補助のための協力者を置くなど事務局体制を強化することが出来た。貴団体からの助成により活動が活性化した。

3、第3回ネットワークNGO全国会議」の開催

およびプレ企画「かながわ国際協力NGO・フォーラム」の開催

2005年2月19日(土)～20日(日)、JICA横浜国際センターにおいて「第3回ネットワークNGO全国会議」を開催した。参加したネットワークNGO団体は北海道から沖縄まで 20団体、参加者・その他 総数 150名となり、予定していた参加者数80名を大幅に上回った。基調講演者に北沢洋子氏を招き、「国際協力ネットワークNGOの役割」と題し、世界のネットワークNGOの状況・役割などについて学んだ。3分科会に分かれ夫々のテーマに基づいて議論し、経験交流をした。全体会では「連携の在り方」について議論した。また、プレ企画として「かながわ国際協力NGO・フォーラム」を2005年1月8日(川崎市)、1月9日(小田原市)、2月18日(横浜市)で開催し、このネットワークNGO会議をきっかけに、神奈川の中で緩やかなネットワークづくりの可能性を探った。

4、「連携の在り方検討委員会」との連携および提案の検討

協働体制の確立については、第2回会議で設置された「連携の在り方検討委員会」から提案があったが採択されず、第5回までこのままのネットワークNGO全国会議の形式を続けながら、議論を継続していくこととなった。(今後の課題の項、参照)

5、会議報告書の作成

会議終了後、会議報告書のまとめを行い、発言者への確認作業の後、3月末に完成した。4月には出席者、助成団体、関係者などに送付した。

6、フォローアップ活動

全体会の承認により、「第4回ネットワークNGO全国会議」の開催については、「(特活)名古屋NGOセンター」、「(特活)関西NGO協議会」、「(特活)国際協力NGOセンター」の3ネットワークNGO団体を中心に、第3回会議の経験を引き継ぐために「横浜NGO連絡会」が準備委員会に加わった。他にも四国や福岡など地域ネットワークNGOや教育、ODA 関連のネットワークNGOにも参加を呼びかけていった。その後、実行委員からの要請で、「第4回ネットワークNGO全国会議」は名古屋市での開催が決まり、「(特活)名古屋NGOセンター」が事務局を引き受けることとなった。また、「NGOセンターみえ」、「NGO福岡ネットワーク」も加わり、2005年9月27日「第4回ネットワークNGO全国会議」実行委員会が立ち上がった。

活動の実施経過

2003年7月29日(火) (於:ちよだ中小企業センター) 「第3回ネットワークNGO全国会議」準備委員会および、全国レベルの協力体制のあり方を考える「連携の在り方検討委員会」の合同会議開催。

2003年 9月 3日(水)(於:新潟市朱鷺メッセ) 準備委員会

2003年12月 2日(火) (於:国際協力NGOセンター) 準備委員会

2004年 1月20日(火) (於:国際協力NGOセンター) 準備委員会

2004年 3月 5日(金) (於:横浜NGO連絡会事務所) 準備委員会

2004年 4月23日(金) (於:横浜NGO連絡会事務所) 第1回実行委員会

2004年 6月 2日(火) (於:横浜NGO連絡会事務所) 第2回実行委員会

2004年 7月15日(木) (於:横浜NGO連絡会事務所) 第3回実行委員会

2004年 9月 6日(月) (於:横浜NGO連絡会事務所) 第4回実行委員会

2004年11月15日(月) (於:横浜NGO連絡会事務所) 第5回実行委員会

2004年12月28日(火) (於:神奈川県民サポートセンター) 臨時実行委員会

2005年 1月 8日(土) (於:川崎市国際交流センター)

9日(日) (於:小田原市民活動サポートセンター)

プレ企画 かながわ国際協力NGOフォーラム 地域ワークショップ

2005年 1月18日(火) (於:横浜NGO連絡会事務所) 第6回実行委員会

2005年 2月18日(金) (於:あーすぷらざ) プレ企画かながわ国際協力NGOフォーラム

2005年 2月19日(土)～20日(日) 「第3回ネットワークNGO全国会議」

2005年 2月下旬～4月初旬 会議報告書のまとめ

2005年 4月19日(火) (於:横浜NGO連絡会事務所) 第7回実行委員会

2005年 4月下旬 報告書の発行および送付

2005年 7月12日(火) (於:名古屋国際センター会議室) 伝達事項・資料などの送付

第4回ネットワークNGO全国会議 準備委員会

活動の成果

1、NGO・外務省定期協議会」、「NGO・JICA 協議会」、など各協議会の在り方を検証し、成果と課題を共有した。

「NGO・外務省定期協議会・連携推進委員会」、「NGO・外務省定期協議会・ODA 政策協議会」、「NGO・外務省定期協議会・全体会」、「NGO・JICA 協議会」、「NGO・JIBC定期協議会」、「NGO・財務省定期協議会」などの運営に当たったネットワークNGO担当者から、活

動経過が報告され、それに基づいて意見が交された。

評価 ・ 対話の場とメカニズムが出来て、運営がスムーズに行われるようになった。

- ・ 問題案件などについても一定の改善がされた。
- ・ 調査基準を作るなど、NGOの意思が反映されてきている。

意見 ・ 提言型NGO、業務実施型NGOとも連携を強め、戦略をもって対応すること。
・ 政策が決まっていくプロセスに市民・NGOが参加出来る枠組みと透明性が必要。
・ JICAの寄付金事業開始の問題(目的・予算が明確でない)。
・ 国益重視、平和構築、援助の軍事化の進行。

成果 ・ 今後、日本各地域での各定期協議会開催を広げていく。
・ 全国会議で活動成果を伝え、情報を共有化する場とする。
・ ODAを判り易く考える部会を設け、関心のなかったNGOにも理解を進めた。

協議の成果を整理し、検証し、周知する機会となった。今後さらに具体的な内容を議論する中で改善を図る。

2、「地域との対話」「地域との連携」に関して、成功例・失敗例を含めて今後の参考になる内容をネットワークNGO団体やNGOに持ち帰ることが出来、個々のNGOのレベルアップにつなげることが出来た。

地域のJICAや国際化協会などとの対話・連携を実際に行っているネットワークNGO団体の具体的な事例を基に、以下の点から話し合いを行った

- ①ネットワークNGOの地域での役割の確認。
- ②連携にむけてのあるべき姿。
- ③連携構築に向けた具体的方法。

意見 ・ 相互の組織内容、目的を知る場の設定から始め、事業連携の中で相互理解を深め、ただ単に連携が目的ではなく何を指して連携するかを確認すべき。
・ 協会・JICAの公共性、信頼性を生かし、NGOの現場経験・現状認識を活用した連携事業や連携によって質の違う新しいものを生み出し、開発モデルを組み込んでいくことが必要。

成果 ・ 地域連携会議の開催の提案。
・ 根源的などころで世界の市民生活がグローバルにつながっているという認識をNGO・JICA・交流協会・市民も持って、市民・地域を耕していこうというヒューマンネットワークの形成を提唱。
・ ネットワークNGOの事務局の人材交換、シルバーボランティアの活用。
・ JICAからは20名のオブザーバー参加があり、交流会などで地域JICAとNGOの接点を持ち、地域活動での連携の可能性を見出すことが出来た。

全国のネットワークNGO団体が集う会議だからこそ、成功・失敗例を含め具体的な事例を共有でき、地域における活動への取り組みの参考として持ち帰ることが出来た。

3、「横浜NGO連絡会」が事務局担当となったことで、他地域の小規模ネットワークNGOが全国会議開催の可能性が出てきた。

名古屋、関西、JANICの3ネットワークNGO団体だけでなく、全国のネットワークNGOのどの地域でも受け入れられる力が必要である。今回の横浜の経験により、小規模であっても開催が可能であることが証明された。「第4回ネットワークNGO全国会議」実行委員会では、

「NGO福岡ネットワーク」、「NGOセンターみえ」が参加、「四国NGOネットワーク」が参加検討中となり、次期(第5回)会議の開催候補地・受け入れ団体としての可能性を示している。3ネットワークNGOが指導的役割を果たしながら、小規模ネットワークNGOがエンパワーする機会を与えることが出来た。

4、第3回ネットワークNGO全国会議」の開催を機会に、神奈川の中に緩やかなNGO(国際協力団体)のネットワークを作ることが出来た。

プレ企画として「かながわ国際協力NGOネットワーク・フォーラム」を設置。

県内各地のNGOに参加を呼びかけ、参加団体との緩やかなネットワークを作った。

2005年1月8日(土)(川崎市国際交流センター) 地域ワークショップ 参加者30名

9日(日)(小田原市民活動サポートセンター) 地域ワークショップ 20名

2005年2月18日(金)(あーすぷらざ) フォーラム 約40名

成果 ・ 横浜NGO連絡会の会員同士の理解が深まり、活動の質を高めることが出来、「よこはま de パワーアップ」となった。

- ・ この会議を契機に2団体が加入し、ネットワークが広がった。
- ・ 神奈川県国際交流協会が設置した「NGOとの協働事業」の第1回目の事業として、今後の連携の在り方を示唆した事業となった。
- ・ JICA横浜、(財)川崎市国際交流協会、(特活)国際協力NGOセンターも参加し、日ごろ馴染みのないNGO・市民との相互理解につなげることが出来た。

今後の課題

1、全国レベルでのネットワークNGO間の協働体制の確立

今会議では「連携の在り方検討委員会」からの提案として「連合体としてのネットワークではなく、より多くのNGOへ開かれた『全国国際協力NGOフォーラム』の開催」または「そのための世話人会設置」について議論したが採択されず、第5回までこのままネットワークNGO全国会議の形式で、議論を継続していくこととなった。初めての参加者も多く、「そもそも論」として何のために協働体制を確立させるか、原点に立ち返ることの重要性が確認された。

「第4回ネットワークNGO全国会議」で継続審議される。

2、ネットワークNGOの組織強化とマネジメント能力向上のための協力体制の確立ならびに全国レベルでのNGOによる対市民ネットワークの確立

活動の内容、問題への対処などに対し、事務局・実務ベースで働いている人たちの意見交換がない現状の中で、今会議では経験交流をメインにすえて、共通項の確認がされた。

- ・ ネットワークNGOの受益者は誰なのかを明確にし、ネットワークNGOの存在意義、活動内容の考え方の根源としてのミッションを明確にすることの重要性。
- ・ 会員団体や地域・関係諸機関に対する情報の提供を積極的に行っていくこと。
- ・ 組織強化資金に関して公的資金からのサポートが必要であるが、公平性を保つことが必要であり、第三者による評価も含めて考える。

などの意見が出されたが、組織強化、マネジメント能力向上の協力体制、全国レベルでのNGOによる対市民ネットワークに関しては、時間的制約の中で、今後の議論にゆだねられた。

どのようにテーマを絞って会議を行うか、次回以降、課題の整理も必要である。